

何を語るから俘虜の横顔

香川縣善通寺 俘虜收容所



カットは善通寺俘虜收容所
 1元ウーキー島空軍司令海軍中佐キーン
 2海軍軍醫中佐セッチ、米國著名の眼科醫
 3米國海軍分隊長としてゐたタイラー
 4撃沈されたベンギン艦艦長ハヴラン
 5蘭潜水艦艦長ベンデカー
 6元グアム島總督マクミラン、俘虜中の最年長者、五十四歳
 7撃墜された濠洲航空大尉トンプソン
 8コタバル沖で撃墜された英航空大尉バウデン

有史以來、日本はまだ一度も敗れたことがない。いつの時代でも、大御威のものと、赤子こそつて醜の御權となる忠勇義烈の精神が、大和民族の體內深く脈打つてゐた當然の結果である。そして今日もまた未曾有の廣大な戦域で勝ち續けてゐるのである。

ところで、われわれは日本の不敗を確信すると共に、驕れるもの久しからずと教へる占人の言に耳を傾けねばならぬ。

勝者につきものの驕慢ゆゑに國を亡した民族は、外國歴史に幾多の例がある。日本は決して敗れない。しかし「日本は戦争ならいつでも勝つんだ」といふ安直な考へであつては、勝利はむづかしい。さういふ氣分には恐るべきことがある。われわれは幸ひに敗れたみじめさを知らない。さういふみじめさは永劫に味はつてはならぬ。しかし、敗者はみじめなものであるといふことだけは十分に肝に銘じておかねばならぬ。

こゝにくりひろげられた敗者たちの姿を見よ。そしてなぜ彼等がこんな姿になつたかをとくと考へて見よ。彼等は世界の富者であつた。物質文明の最高を誇つてゐた。自由主義、個人主義を金科玉條とし、國家よりも妻子が大事であつた。

その擧句が、たつた半年にもならぬ前まで、驕慢の限りをつくし、われわれを輕侮してゐたのだ。その末路がこゝに驕るもの久しからずのいましめがある。われわれの戦ひはこれからである。ゆめゆめ油断のなるものでない。もしこれまでの勝利に安堵するならば戦ひの第二段階で敗れるかも知れない。現に敵機は十八日白晝小濱にもわが都市を襲つた。むろん、敵は打續く敗戦にやぶれかぶれになつてわれわれの神經を攪亂しようとするもので、直ちに手痛い一蹴をくらつたものの、とにかく戦ひはまさにこれからである。さればこそ、こゝで一段と心を締めねばならぬし、あらゆる生活面から米英的毒素をとり切つて、神國の民たる姿になりきらねばならぬのだ。そして、あくまで戦ひ、あくまで勝たねばならぬ。俘虜たちのあはれな姿は、われわれにこのことを厳しく忠告する。

六時起床、六時三十分點呼、七時二十分まで清掃、七時三十分點呼、九時より一時間運動、正午食、十四時會報、十五時より一時間運動、十八時夕食二十時點呼、二十一時消燈となつてゐる。

下士官以下の俘虜は二班に分れ、隔日交代で八時出發、途中約一時間を要する大嵐山で開墾に従事してゐるが彼等は氣晴らしになると喜んでゐる。



すがすがしい朝の空氣を吸つて元氣よく自由體操
 常番制で手料理、日本食にも大分慣れて、日本の
 温みが身にしみる





すぐ近くの護国神社に詣でる。神國日本の偉大さに打たれ、しみく、と皇軍の強さを知る



寝ても覚めても妻や子のことが心配。手製の將棋盤で懼みを忘れよう



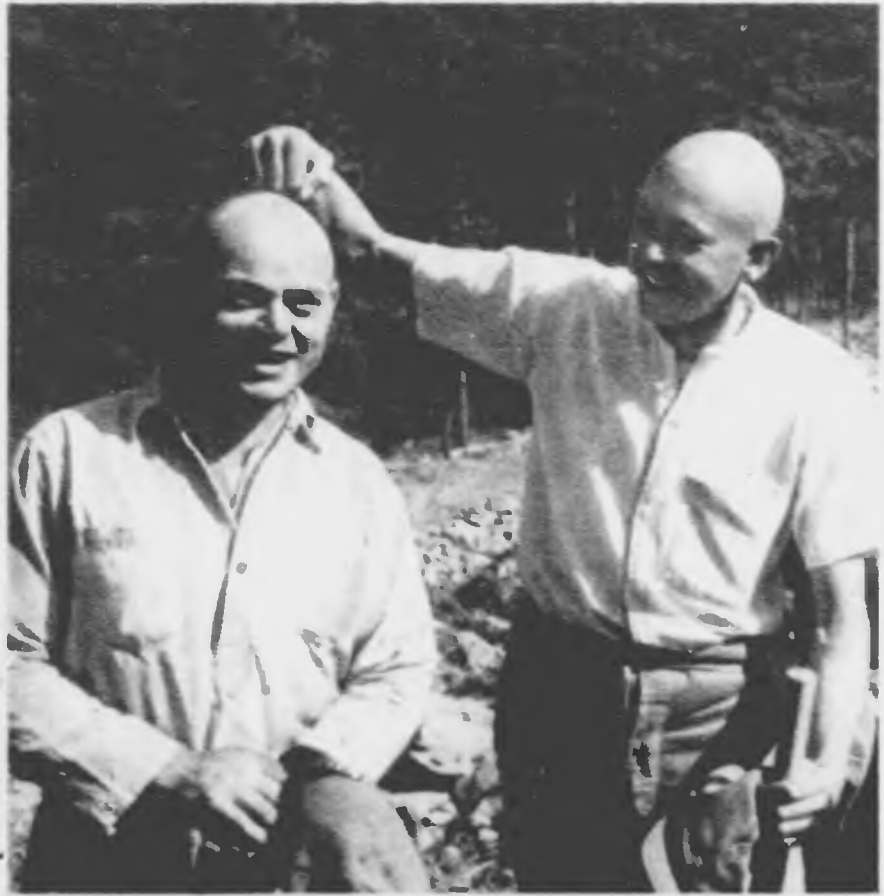
將校は週一回日本語を教へてもらふ。彼等の惡夢を試つて、皇國の眞體をさとらしてやる



戰況は大勢を決した。米英が大東亞を侵略したのが悪かつたのだ



どことが悪いのか、優しく問はれて、わがなまでに泣く



さつぱりしたらう、おれの手並も相當なものだ、何、虎刈だつて??